

天理教 江南支部だより

発行先
発行日
発行責任者
発行住所

江南支部
立教189年7月1日
九里正昭
甲賀町神1750番地の1
7月号 N0310

「おさじづより」

追しようは騒動の元、追しようあれば
どうもならん。追しようの中に濁り心
の迷わす理、めん／＼潰れる臺してる
ようなもの。追しようはその場のもの。
良い顔して追しようから追しよう出る。
皆してる。息してる間は皆してる。

(明治31・4・20)

去る6月6日、甲龍分教会を会場
に「江南支部ようぼくの集い」が開
催された。

教祖百四十年祭三年千日の年祭活
動として5回にわたり「ようぼく一
斉活動日」が開催されたが、年祭後
も続けてほしいとの声を受け、その
勢いを緩めることなく成人の歩みを
進めさせて頂こうと計画され、一回
目となる今回は甲賀大教会役員で長
年にわたり、元の理を学んでこられ
た岡田悟先生を講師におつとめをテー
マに特に「かぐらづとめ」について
学ばせて頂いた。受講者は144人
で、大変勉強になる一日となった。

江南支部ようぼくの集いを開催



だけど有難い 幸せの条件

深谷善太郎著

私は時々、若い学生さんが集まった席で、こう尋ねることがあります。

「幸せの条件って、どんなことだろうか?」。そして、手を挙げてもらいます。

たとえば「財産がある」――意外に手は挙がりません。若いですから、お金なんか要らないと思っている人もいますし、そんなことはあまり重要ではないかと思いたい、という気持ちもあるのでしょうか。そこで「本当に要らないのか? なかったら困らないか?」「何回、手を挙げてもいいよ」と言うと、ジワジワと増えていって、最後には大半が手を挙げます。

「大好きな人と結婚する」――これは文句なしにたくさん挙がります。「健康」――これも文句なし。「仕事」――これは全員ではありませんが、男子はほとんど手を挙げます。「生き甲斐になるような趣味」――これも、そこそこ挙がります。「子供」――これはたくさん挙がり

ます。

ほかに「地位」や「名誉」――これも数は少し減るけれども手が挙がりません。こんな調子で列挙していくと、「幸せの条件」はいろいろあるのです。そこで次に、「大好きな人と結婚して、仕事は順調で、子供も生まれて、家族みな健康。言うことなしの状態で一年経ったとして、幸せだろうか?」と聞くと、あまり手が挙がらないのです。「先ほど挙がった条件が入っているのに、なぜ手が挙がらないんだらう」と尋ねると、「そのときになってみると分からない」という答えが返ってきました。

そうなのです。実は大好きな人と結婚しても、一年経ったら大好きかどうか分からないのです。財産があっても、揉めている家もあります。子供がいたうれしいなと思っても、子供で困っている家もある。つまり、「幸せの条件」が与えられているからといって、幸せとは限らないのです。世界中で一番お金持ちの人は、きっとどこかにいるに違いありません。じゃあ、その人

が幸せかといえ、それは分かりません。

では、幸せの元はどこにあるのでしょうか。それは心です。「子供がいることがうれしい」「配偶者がいることがうれしい」と思えたら幸せですし、「嫌だなあ」と思ったら不幸せなのです。

以前、ある六十代の女性がおたすけを願ってこられました。その方は、喉頭ガンで食道を全摘出されました。大変苦しいと、泣きながら訴えられます。全摘出ですから食べ物が入りにくくて苦しい。体は手術の跡も生々しい。「自分は手術してほしいと思っていたわけじゃない。承知した覚えがない。痛い苦しいと言っても、家族が分かってくれない」と泣いて訴えられるのです。

その方の話を聞いたうえで、私は尋ねました。

「教祖が貧のどん底を通られたときに、明日炊く米がないなかを、『世界には、枕もとに食物を山ほど積んでも、食べるに食べられず、水も喉を越さんと言

うて苦しんでいる人もある。そのことを思えば、わしらは結構や、水を飲めば水の味がする。親神様が結構にお与え下されてある」と子たちを励ましなから通られたというお話があります。私はそれを聞いて知っているけれども、実際にその状況になったことがないので、どれだけ有難いことなのか実感はありません。奥さんは、水も喉を越さない状況で長い間過ごされましたが、初めて物が通った瞬間はどうでしたか？」

すると、その方の顔色が変わって、「そら、美味しかったよ」と。

「そんなに美味しかったですか」「あんなに美味しいと思ったことはなかった」と、先ほどまでの涙とは反対の、うれし涙で話されました。私が「奥さん、それをお子さんにお伝えになったらどうでしょう」と言うと、「良い話を聞かせていただいた」と喜ばれました。

これは心の向きが変わったということですね。心がたすかったということなのです。来るときは悲しくて苦しく

てたまらなかったのに、おさづけを受けて、帰るときは笑顔でニコニコと帰られました。

つらいこと、苦しいこと、悲しいことは、わざわざ数えなくてもつらいし、苦しいし、悲しい。それは誰しも分かっているのです。この女性が、水が喉を越した喜びを感じたときにうれしくて泣けたように、私たちも数えてみれば、ご守護をいっぱい頂いています。そのご守護を喜ぶ心になったとき、実は体もたすかっていくのです。



『みちのとも』より一寸いい話 英語の路傍講演で出会いを広げ

榮嶋勇次 三輪分教会長

教会長になって今年で18年目を迎えます。前回の教祖百三十年祭は、教会長として初めての年祭ということもあり、非常に張りきって年祭活動に臨んだため、途中で息切れしてしまい、少し悔いの残る三年千日となりました。そうした反省を踏まえ、このたびは一

歩一歩、地道にコツコツ通る年祭活動を目指そうと思いました。

教祖の年祭は、存命の理をあらためて感じる事が大切だと聞かせていただくので、教祖が現身をもってお働きくださった当時の先人先生方と同じようにつとめさせていただこうと思いました。

当時、先生方は困っておられる方を教祖の元にお連れして、ともどもにたすかりを願われました。私も、困っておられる方がいれば、一人でも多く教祖の元へお連れしようと思いました。お連れできなければ、私一人でも教祖の所に行って、その方をお願いをさせてもらおうと、おちばへの日参を心定めました。

毎日、教祖がお待ちくださっていると思うと、早く帰って、あの方この方のたすかりをお願いしたいと、教祖をより身近に感じさせていただけるようになりました。

年祭活動が始まってしばらく経ったころ、『天理時報』のある記事が目に残りました。それは、埼玉教区の方

が東京の山手線の駅で、英語で路傍講演をしているという記事でした。海外布教にあこがれて、以前、少しばかり海外での布教を経験させていただいた私は、これだと思い、インバウンドでにぎわうJR奈良駅で路傍講演を始めました。

拍子木をたたいて「よろづよ八首」を奉唱した後、日本語と英語で路傍講演をします。初めのうちは緊張しましたが、だんだん楽しくなってきました。路傍講演をしていると、いろいろな人との出会いがあります。海外の方はもちろん、お道を信仰している方に「頑張って！」と声を掛けていただいたり、同じように奈良駅で布教している教友に刺激や勇み心を頂いたりします。なかには、私の話をうなずきながら聞いてくださる海外の方もいて、とてもやりがいを感じています。

年祭に向け、勇み心に拍車を掛けてつとめたいと思います。

天理教



こどもおちばがえり 少年ひのきしん隊・カウンセラー募集！

期 間：○少年ひのきしん隊

・わかぎ（中学生）・あおば（小学4～6年）

7月31日（15時30分 集合）

～8月3日（17時 解散予定）

○カウンセラー（高校生以上のおうぼく）

○サブカウンセラー（高校生以上）

7月30日（17時 集合）

～8月3日（17時 解散予定）

※1日のみの参加も受け付けます。

※詳細は江南支部育成委員長（甲龍分教会 橋本研一）まで

8月支部ひのきしんデー

8月6日（木曜日）午前9時～11時30分

甲賀学園 鹿深の家 草刈りひのきしん